

緩和ケアだより

松江市立病院 緩和ケア病棟広報誌

2022

vol.

33

 松江市立病院 緩和ケア病棟

題字デザイン：Katsuto Nagira

緩和ケア病棟の理念

緩和ケアとは、苦痛の緩和を必要とする悪性疾患の患者とその家族のQOL（人生と生活の質）を改善することです。

当院緩和ケア病棟では、患者やその家族の想いを可能な限り尊重し、その人らしい生活を送ることができるように、さまざまな専門家とボランティアがチームとして支えます。

基本方針

1. 痛みやその他の苦痛となる症状を緩和します。
2. 患者さんがその人らしく生きることができるように支えます。
3. 無理な延命や意図的に死を招くことはしません。
4. 病気の早い段階から適用し、積極的な治療に伴って生ずる苦痛にも専門性をもって対処します。
5. 患者さんの希望に沿い、在宅への支援を行ないます。
6. 患者さんの療養中から死別した後に至るまで、家族が様々な困難に対処できるように支えます。



CONTENTS

● Message 『原点に戻る意味』	1・2
● 今回のミドコロ～クリスマス～	3・4
● 季節の行事	5・6
● 徒然日記	7





緩和ケアセンター長
安部 睦美

原点に戻る意味

1997年、Dr シシリーソンドースに出会い、その後山崎章郎先生の聖ヨハネホスピスに研修に行ったのが今から20年ほど前。一人の女の子との出会いから始まった私の「緩和ケア」への道。ホスピスケア、緩和ケアの役割も昭和、平成、令和と変化してきている。その変化を常に臨床の現場で感じてきた。しかし変わらない、変わってはいけない「ホスピス緩和ケア」は存在する。「ホスピス」とは「病で倒れた旅人を暖かい食べ物とベッドでもてなしたところ」。それは「患者さん、ご家族がよかったと思うことのできるケ

アを提供すること」。この言葉は今も昔もこれからも決して変わらない、ホスピス緩和ケアの理念を示しているのではないか？「動けなくなったら入院する」と言っ
て、最後までご自分で自分の生き方を決めてこられたMさん。神経ブロックを行うことで痛みが緩和し、そうであれば家で過ごしたいとご家族と思いつくことなく過ごされた時間。「ここ（緩和ケア病棟：PCU）には治してもらいに来ている」と抗がん剤の効果を確認しながらも日常生活がしにくくなるたびにPCUに入退院を繰り返しているFさん。「よくなるので



あれば入院する」「よくならないのであれば家にいたい」という思いで入退院を繰り返し、自宅とPCUを行ったり来たりを繰り返しながら常に「トイレに行ければ」を目指して日々リハビリに取り組んでおられる。

PCUの原点とは何だろうか？「その人がその人らしく生きることができるためのお手伝いをするための一つのツール」ではないか、当然のことであるが、本当にそういう役割を果たすことができているであろうかと最近は考えている。30数年勤めたこの病院を3月に退職。そして

PCUに再就職、私にとって2022年は「原点に戻る」という意味を考える年にしたい。山陰で初めてのPCUを立ち上げ、とにかく走ってきた20年。スタッフの支えに改めて感謝しながら、あと何年できるかわからないが、「自分の置かれた場所」で新たに「緩和ケアの原点」を考えていきたい。緩和ケア病棟から見える田和山遺跡、以前山崎章郎先生が訪れてくださったときに、「ここは人が生きるための原点だね」とおっしゃった言葉をかみしめながら。



今回の
ミドコロ

クリスマス

令和3年12月16日 クリスマス会を行いました。マスクをしての行事はもう慣れた感じです！逆にマスクを利用してやりたい放題？！スタッフはもちろん、皆さんも楽しんで頂けたようです。



たのしんでくださいね〜



クリスマスケーキとクリスマスゼリー



いつもながらボランティアさんの素晴らしい作品に脱帽



いつもお世話になります♪



副師長二人です。片方クヌキになってますが。



ポテトフライ美味しそう！



「劇団和らぎ」の登場です

「劇団和らぎ」による
ジェスチャーゲーム終了



中右先生突然の縦笛披露



中右先生自作の衣装です。



今年もきれいに飾れました



クリスマスミュージック演奏



月見会

令和3年9月9日

月見会が行われました。去年に引き続きのコロナ禍の中、岩下先生はじめ医師軍団の奮闘により、患者さん大笑い。中右先生のピアノ演奏や安部先生の歌など、穏やかな雰囲気の中で行いました。来年こそは、マスクとってできるといいですね。



後ろになんか変なのいますよ!



安部先生も歌います!



「なんでやねん」
岩下先生
自分でっこみ



ボランティアさん作成のお月見飾り♪



栄養士さん手作りあやつ♪



みんなで作成したちぎり絵

新春の宴

令和4年1月13日

新春かくし芸大会を行いました。仮装するとマスクのせいで誰が誰やら全くわかりませんが、患者さんもスタッフも、みんなで大笑いした日でした。



はい、あなたもつっぱって〜!



真剣(おもちゃです)
白刃取りっ



一緒にツッパリポーズ!



栄養士さんの手作りお汁粉が本当に美味しいんですよ〜♪



和田師長!
見事な回し!



ピアノとフルートで「春の海」演奏



変な集団が押しかけて患者さん驚いた後に大爆笑



劇団和らぎの仮装ダンス「今日から俺は!!」



獅子舞に頭がじられて縁起がいいです

節分

令和4年2月3日

今年も豆まきをしました。例年のごとくボランティアさんのご協力もあり、みんなで楽しく鬼払いができました。ありがとうございました！



「あんたも毎回大変だねえ」



今年も鬼払い
できました～



鬼と福と
みんなで♪



和田師長鬼



「よくできとるなあ」



節分です

桃の節句

令和4年3月3日

今年も微妙なお内裏様とおひな様が登場です。みんな今夜うなされな
いかな…。



毎度どうも劇団和らぎです！



今年はお内裏様とおひな様
逆バージョンで！



安部先生十八番のハーモニカ



手作り雛まつり



中右先生伴奏によるフルート演奏

徒然日記



編集後記

新型コロナウイルスが全く落ち着きを見せず、少しずつ with コロナが浸透しつつあるこの頃です。当病棟も例外ではありません。各行事で飲食はできなくなったものの、感染対策を万全に整えながら行事は粛々としております。ご家族の方にご参加頂けなかったりはそのものの、スタッフが精いっぱい寄り添い、『非日常』を提供しています。

最近の stayhome のおかげですっかり YouTube にはまっており、色々な動画を見ているわけですが、大変ためになる動画も数多くあります。その中のひとつに、この『非日常』の大切さを教えてくれたものがありました。それによると、日本に根付いているこの各節目ごとの行事というのは、いわゆる『非日常』というもので、この『非日常』が『日常』を豊かにするとても大切なエッセンスなのだということです。まあ、現在のコロナ禍の生活自体が非日常と言えそうなのかもしれませんが、患者さんにとっての日常は病院での療養生活そのものであります。療養生活の中に『非日常』を盛り込むことで、療養生活がより豊かになりますよう、今後ともスタッフ総出で『非日常』を提供し続けていきたいと思っております。

長くなりました。最後まで読んで頂いてありがとうございました。

西 紫

編集
委員会

編集 長：中右 礼子
校 正：岩下 智之、和田 祥恵
編集・写真：西 紫

令和4年4月 発行

松江市立病院 緩和ケア病棟

〒690-8509 島根県松江市乃白町32-1

TEL : 0852-60-8000 (代表) / FAX : 0852-60-8005 (総務)



松江市立病院
MATSUE CITY HOSPITAL